

立命館大学 法科大学院

FD NEWS LETTER

通巻第7号

2013年5月1日

目次

2012年度FDニューズレター発行にあたり	1
2012年度のFD活動	2
. 教学改善アンケート	2
. FDフォーラム	4
. 授業参観	5
「第2回認証評価を受けて　FD活動の成果と課題　」 （松本 克美 教授）	6

2012年度FDニューズレター発行にあたり

FD委員長 和田 真一 教授

立命館大学法科大学院では、FD委員会を設け、例年、教学改善アンケートやFDフォーラムの実施等、様々のFD活動を行っています。このニューズレターでは、2012年度の活動の概要を紹介したいと思います。また、2012年度の認証評価を受けて、FDに関連する課題を自己評価委員会委員長の松本克美教授に寄稿いただきました。ここに御礼申し上げます。

2012年度のFD活動

今年度のFD委員会は、専門分野ごと、および、理論と実務の架橋をはかる法科大学院の教育理念を考慮し、公法系、民事法系、刑事法系、先端・展開、実務基礎の各科目担当教員から11名（うち実務家教員2名）のメンバーで構成されました。

FD委員会は、夏期休暇中を除いて11回開催し、FD活動の方針作成と実施を進めてきました。活動の中心は、教学改善アンケートの実施と結果分析、FDフォーラムの開催、授業参観の実施、ニュース発行などです。

・教学改善アンケート

2012年度は、より客観的な結果が得られるようアンケート項目の見直しを行いました。

対象については例年通り、全科目・全クラスについて行ないました。前期・後期それぞれ、第1回目は、授業開講後第5～6週目のところで、アンケート用紙を授業時に配布し授業終了後回収する方法で、第2回目は、第14～15週に実施しました。1回目のアンケートは、その結果を後半の授業改善に反映させること、2回目のアンケートは、授業改善の達成度を検証するとともに、次年度以降の授業改善やカリキュラム等の改革に反映させることを目的としています。実施科目率は、ほぼ100%です。

回収されたアンケートは、そのコピーが各授業担当者に渡され、個々の教員が授業改善に役立てるとともに、FD委員会委員が分担して分析を行なった結果を、FD委員会で集約・検討し、それを教授会に報告して、現状や課題、改善方向等を共通の認識にすることに努めました。今年度後期からFD委員会から教授会への報告文書を、法学部から法科大学院に出講している教員にも配布しています。

<前期> 第1回目アンケート

前期第1回アンケートは、5月に、授業5ないし6週目に行われ、全科目で実施されました。回収率は89.3%でした。全体を通じて、「非常によく理解できる」15.3%、「だいたい理解できる」71.5%であり、昨年度前期第1回アンケートにおける、「非常によく理解できる」13.6%、「だいたい理解できる」69.9%より、やや上がっており、理解度に関する自己認識は高いと言えます。また、「非常に満足」は26.4%、「満足」が58.6%であり、昨年前期第1回目の、「非常に満足」23.5%、「満足」61.1%ほぼ同じでした。

<前期> 第2回目アンケート

前期第2回アンケートは、第14または15週目の授業日(7月9日～21日)に実施し、回答率(回収数/受講登録者数)は、1543/1838 = 83.9%(第1回は87.8%)でした。全科目を通じてみると、「理解が非常に深まった」28.8%、「ある程度深まった」62.1%であり、第1回アンケート同様、高い水準でした。教員の説明についても、消極的評価は全体の10%以下、従来の「科目満足度」に代えて新設した項目「科目の到達目標の達成度」では、「非常によく達成」が20.5%、「ある程度達成」64.7%で、合わせると80%を超えました。

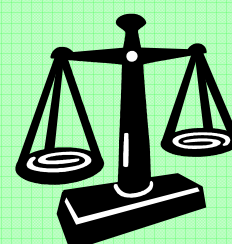
<後期> 第1回目アンケート

後期第1回目アンケートは、11月15日(木)～21日(水)に実施しました。のべ受講者1620名中1350名からアンケートは回収され、回収率83.3%は通常でした。アンケート上だけを見ると、理解非常に深まった27.9%、深まった63.6%、説明が非常にわかりやすい33.3%、わかりやすい58.0%、非常に満足30.9%、満足58.0%で、前期同様高い評価となっています。

<後期> 第2回目アンケート

後期2回目アンケートは、1月7日からの第14週目の授業または1月14日からの第15週目の授業において実施しました。のべ受講者1599名、回収アンケートは1308通で、回収率は81.8%でした。全科目でみると、授業の理解度が非常に深まった、深まったで92.1%、教員の説明が非常にわかりやすい、わかりやすいが90.7%、科目の到達目標を非常によく達成とある程度達成で88.3%と問題のない数値となっています。

全般的には、教員の説明はわかりやすく、理解度、満足度、科目の到達目標への到達度とも高評価となっています。もっとも、教授会やFDフォーラム等では出されている問題点や院生との授業懇談会などで提起されている問題もあり、アンケート結果をこれらとも突き合わせて授業改善に活かす必要があります。また、アンケートの目的を明確にし、項目などの内容の改善をさらに図る必要があると考えています。



・FDフォーラム

今年度は、3回のFDフォーラムを実施しました。そのテーマと概要は以下の通りです。

第1回(2012年7月3日)

テーマ「法律基本科目の講義、演習における双方向、多方向授業の成果と課題」

報告1	憲法A	市川 正人 教授
報告2	刑法A	浅田 和茂 教授
報告3	商法	村田 敏一 教授
報告4	民法演習	松本 克美 教授

双方向、多方向授業は、授業方法の望ましいあり方として法科大学院設置当初から推奨されてきました。しかし、それに反して、実際の運営の困難さ等を理由に、必ずしも全ての講義で取り入れられているとはいえません。現在では、法律基本科目の1クラス当たりの受講者数が減少し、双方向、多方向授業の導入への条件が整っているかのような面もありますが、他方、学生実態の急速な変化はそれを許さないという評価もあります。そこで、現状に適合的な法科大学院の講義、演習の授業方法について、あらためて取り上げることになりました。報告者の授業をあらかじめビデオ撮影し、報告はそれを使って行われました。

第2回(2012年11月27日)

テーマ「FD活動の視点と還元」

報告1	植松 真生 教授	(国際私法)
報告2	高田 昭正 教授	(刑事訴訟法)
報告3	永井 ユタカ 教授	(民事訴訟法)
報告4	中山 布紗 准教授	(民法)

法科大学院開設以来、授業参観やFD活動を積み重ね、授業方法や特に成績評価について取り上げてきました。それにより、かなり定着し、ルーティーン化した部分もありますが、いずれにしてもまだまだ改善の余地もあると考えられます。そこで、本年度着任の経歴専門分野も様々な先生方に前期、後期の授業参観、前期授業アンケートについて率直な意見を述べていただき、今後のFDの在り方を検討しました。

また、「FD成果の還元」については、授業担当者が個別授業の改善に生かすこととともに、新しく赴任した先生方への承継という面もあります。現在のところ、これは科目部門ごとにゆだねられていますが、共通化すべき内容、方法がないか、この点についてもあわせて検討しました。

第3回(2013年3月26日)

テーマ「力を伸ばす「予習 授業 復習」のあり方」

報告1 「認証評価報告書を受けて」	北村 和生 教授
報告2 「民法での取り組み例」	松本 克美 教授
報告3 「刑法での取り組み例」	大下 英希 准教授
報告4 「これまでのFDフォーラムを通じて」	和田 真一 教授

法曹として必要な専門知識と思考力を身につけるには、要求される水準の高さと量の膨大さを考えれば、当然に相当の学習時間が必要であり、方法も工夫する必要があります。本年度第1回のFDフォーラムでは、現在の学生実態に即した講義や演習の方法(双方向、多方向授業の方法)を検討し、その際にも、授業内で予習事項を確認する、または前回授業の内容を復習する取り組みが紹介されました。第3回FDフォーラムでは、授業の効果をより上げるために、予習、復習をどのように工夫すればよいのかという視点から検討を進めました。報告に基づき、どのように緊張感をもって授業に臨ませるか、教材選択や授業の運営方法など教員側からのアプローチと、受講者にクラス選択をさせたり、モチベーションを高める企画を取り入れるなど、学生の自主的な取り組みを進めるという両方向からの議論が行われました。

FDフォーラムの概要については、過年度分も含め、立命館大学法科大学院ホームページに掲載しています。
<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/gr/hoka/index.htm>



・授業参観

2008から2010年度で全科目全員による授業参観を実施しているため、前年度同様、新設科目と新任者担当科目の授業参観を中心に行いました。もっとも、今年度の新しい方針として、新任者には関連科目などの参観を1科目以上行って、報告書も提出していただくことにしました。授業参観は、参観科目の問題点を指摘するという側面もありますが、参観者が実践例を通じて学ぶという側面もあります。現在、参観報告書は授業担当者にコピーを渡すほか、FD委員会、教授会で報告、検討をしていますが、FDフォーラムともども授業内容にどのように適切にフィードバックさせるか、さらに検討を進めていきたいと考えています。

「第2回認証評価を受けて F D活動の成果と課題」
松本 克美 教授（立命館大学法務研究科・自己評価委員会委員長）

1 はじめに

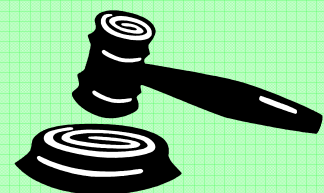
立命館大学法科大学院は、2012年度後期に、法務研究財団より、2回目の認証評価を受け、その結果、同財団が定める法科大学院評価基準に「適合している」との認定を得た。なお2013年3月27日付で公表された認証評価報告書は同財団ホームページ（http://www.jlf.or.jp/work/ninshohyoka_2012latter.shtml）に掲載されている（以下、単に報告書と略す）。

F D活動関連での評価については、狭義のF D活動について「F Dの取り組みが質的・量的に見て非常に充実している」としてA評価を受け、前回認証評価よりも評価を上げた一方、学生評価と授業の項目がそれぞれB評価で、前回評価と同じであった。

本稿では、今回の認証評価結果をふまえて、今後のF D活動等の課題について私見を述べてみたい。

2 F D活動の取り組みへの兼任教員・非常勤教員の参加

法科大学院の専任教員は、授業参観や年数回開催するF Dフォーラムなどに、高い割合で熱心に参加し、また、公法、民法、商法、刑事法などの部門ごとに適宜担当者会議を開催し、授業改善に取り組んでいる。他方で、今回の認証評価では、「F D活動への参加が兼任教員・非常勤教員にまでは、まだ十分広がっていないこと」が課題として指摘された（報告書49頁）。この点は、かねてより自覚している問題である。兼任、非常勤の先生方に対して、かねてより実施してきたF Dニューズレターの配布にとどまらず、F Dフォーラムの録画をDVD化したものを見ていただき授業改善の参考にしていただき、また、兼任、非常勤の先生方と直接お会いしてF D活動について情報・意見交換をさせていただく機会を設け、認識・方針の共有化を図っていくことなどの更なる工夫が必要であろう。



3 学生評価の授業改善への反映

今回の認証評価では、「当該法科大学院では、アンケート調査が各学期の初期段階と最終段階の2回に分けて実施されていること、その調査結果が適切に分析され授業方法等の改善に役立てられていること、ウェブ上で調査結果の概要が公開されていることなどは、積極的に評価できる」とされつつも、授業アンケートを授業改善にどうつなげるかの「フィードバックの方法には、なお改善の余地がある」ことが指摘された(50-51頁)。

現在は、前期と後期にそれぞれ真ん中辺と最後の授業で2回のアンケートを実施している(回収率は多くの科目で9割以上である)。第1回目の授業アンケートから析出された授業改善点については、後半の授業に向けて改善策を実施し、その成果を2回目のアンケートで検証し、さらに課題があれば、翌年の授業改善に活かすようにしている。また、前期と後期に学年別に授業懇談会を実施し、直接、学生と教員の意見交流の場を設け、改善すべき点は改善に努めている。

そういう次第で、授業アンケートのフィードバックについては、その実効化をはかるために努力を続けている。そのうえでさらに改善の余地があるとすれば、フィードバックの方法というよりも、授業改善の実質的な中味の妥当性の問題ということなろう。この点はひきつづき、FDフォーラムや部門での担当者会議などを通じて日常的に検証していきたい。

4 授業の質的向上・活性化

今回の認証評価においては、「授業の実施については、充実した授業も行われている」として積極的な評価を受ける一方で、「全体として知識定着を重視した教育にやや傾斜している傾向」が見られ、また、双方向的授業も「全体として活発とはいえ、学生同士も含めた多方向の議論は乏しい」、「学生が十分な予習を行って授業に臨むということを前提としていないのではないかとと思われる授業も少なくなく、学生の意欲の減退を惹起していないかも懸念される」という厳しい評価を得た(67頁)。我々としては、予習を十分にしたうえで授業に臨むように、予習課題の文書提出や、小テストでの確認などの様々な工夫を行い、また、学生の実力アップにつながる双方向的・多方向的授業の在り方などについても検討を重ねているところである。本年3月に開催した2012年第3回FDフォーラムでは「力を伸ばす『予習 授業 復習』のあり方」をテーマにとりあげて、様々な授業実践の成果を共有化も試みた。引き続き、授業の質的充実、さらなる活性化を実現するための努力・工夫をつづけていきたい。

(発行元)

立命館大学 法務研究科 (法科大学院)

〒604-8520

京都市中京区西ノ京朱雀町1

立命館大学

プロフェッショナルスクール事務室

TEL : 075-813-8270

FAX : 075-813-8271

Mail : rits-ls@st.ritsumei.ac.jp